



漆に秘められた可能性

—素心のオリジナル漆ブランド「ウルシリンク」—

人類が最初に漆と出会ったのは縄文時代。以来、お椀やお箸など、わたしたち日本人の暮らしに漆器は身近で欠かせないものでした。日本では生活用品である漆器も、英語では上質な工芸品として愛され、漆のことを英語圏では「Japan」と呼ぶほどです。



私たち素心が取り扱う仏壇にもずっと漆が用いられてきました。深みのある艶色、まろやかな潤み、そして持ちのよさは、化学塗料の比較になりません。しかし最近では、漆の採取量の激減によりプラスチック製品や化学塗料が台頭。後継者不足も深刻な中、世界に誇る日本古来の伝統工芸のすばらしさを広めることが、素心の使命だと立ち上げた事業が「ULーウルシリンク」です。



漆製品はもともと木と漆でできていましたが、ガラスやアクリルなど、さまざまな異素材とコラボレートすることで、漆のまだ見ぬ可能性を引き出します。



毎月1回の「金継ぎ教室」は漆の魅力を身近に感じてもらう場として好評を博しています。素心のULーウルシリンクにご期待ください。

- UL 商品 箸置、お椀、グラス、アクリルステージ
- 海外の展示会にも出店
- お持ちのお品にも漆や蒔絵を施します。ぜひご相談ください

五感で味わうお仏壇の世界



～おりんの音色編～

お仏壇は、仏様の姿を目で見て、お線香の香りを鼻に感じ、おりんの音色に心を静め、数珠をかけた掌で合掌し、口にお経を唱え、そして心の中で神仏やご先祖様に想いを馳せます。そんな五感で味わうお仏壇の世界。今号は、おりんを取り上げます。おりんは真鍮（銅と亜鉛の合金）でできていますが、金属の配合比率、さらには、大きさや形状の違いなどにより、さまざまな音色を響かせてくれます。また、銅と錫の合金の砂張（さはり）や、18金のおりんもあります。



最近ではモダンなお仏壇を選ぶ人が多く、それにあわせてオシャレなおりんが続々と登場。中でも、「たまゆらりん」と「おとずれりん」はそのかわいらしい姿と澄みきった音色から、ロングランの人気を誇ります。



たまゆらりん



↑ 試聴できます



おとずれりん



↑ 試聴できます

おりんは、種類、形、大きさなどによってさまざまな音を響かせてくれます。みなさんも、素心に足を運んで、おりんの音色を味わってみませんか？